

令和4年度志布志市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約42%となっている。

米消費量及び価格の低迷のため厳しい農業経営が続く中で、水田活用の直接支払交付金により、飼料用稲（WCS）や飼料用米、加工用米への転換が拡大している。

水稲のみでの農業経営は厳しいため、水稲に比べて収益の上がる野菜等の高収益作物を中心とする作物の組合せにより、生産性と収益性の高い水田農業経営を確立して、水田の効果的及び効率的な活用を図っていく必要がある。

また、農業従事者の高齢化や農家戸数の減少が進むとともに、耕作放棄地及び不作付地が拡大しているため、地域農業の担い手を安定的かつ計画的に確保し、育成することが重要な課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

【検討に当たっての主な視点】

○ 適地適作の推進

市内の約1,400haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

○ 収益性・付加価値の向上

地域の特性を生かした高収益作物の作付を推進するため、今後の水田農業高収益化推進計画策定に向けて検討を始めるとともに、農業従事者に対しては計画的な転換を推進することで収益性の向上を目指す。

○ 新たな市場・需要の開拓

収益性を向上させるために、有利販売に向けた新たな流通の開拓を目指す。また地場産業との連携や高収益作物のブランド化に向けて検討する。

○ 生産・流通コストの低減

低コスト生産技術の普及や地域で策定された人・農地プランを活用した農地の集積・集約化を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

【検討に当たっての主な視点】

○ 地域の実情に応じた農地の在り方

地域の担い手や労働力の状況等に照らして、水田のまま維持することが地域農業の将来の展望と一致するのかなど、基盤整備の人・農地プランを活用しながら検討する。

○ 地域の実情に応じた作物・管理方法等の選択

地域農業の担い手が現在の在り方から大型農家や農業法人にシフトしていくことが予想されるなかで、より高収益かつ省力的な管理が可能な作物等の導入検討を推進する。

○ 地域におけるブロックローテーション体系の構築

水田機能を有する農地において、転換作物の連作による収量低下を防ぐため、地域単位で、水稲と転換作物とのブロックローテーションの作付計画を推進し、生産性の向上を図る。

○ 水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

水稲（水張り）を組み入れない作付体系が5年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田については、農業従事者、又は所有者に対し畑地化を促すとともに、水稲（水張り）とのブロックローテーション構築を検討し、収量低下を防ぎ生産性の向上を図る。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

早期米では「なつほのか」、普通期米では「ヒノヒカリ」を中心に作付を行っているが、いずれも品質の良い、減農薬及び減化学肥料等のおいしい米づくりを推進する。

早期米については、早期出荷による有利販売に重点をおき、県内外への販路拡大を進める。

普通期米については、県内消費を主体にした販売の拡大を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米の生産拡大にあたっては、国からの産地交付金を活用し、生産性向上の取組を推進することにより、生産の維持・拡大を図る。

また、飼料用米生産ほ場の稲わら利用の取組（耕畜連携）を推進する。

イ 米粉用米

産地交付金を活用し、生産性向上の取組を支援しながら、作付の拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、内外のコメの新市場の開拓を図る。

エ WCS用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、WCS用稲の低コスト良質粗飼料の生産と飼料自給率の向上を図りながら、産地交付金を活用し、生産面積拡大を積極的に推進する。

オ 加工用米

産地交付金を活用し、生産性向上の取組や複数年契約の取組を推進しながら、県内及び地元の実需者等（酒造会社等）との連携を強化し、作付の拡大を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

産地交付金を活用し、二毛作による作付拡大を推進するとともに、実需者との契約締結の推進に取組み、作付面積を確保する。

(4) そば、なたね

産地交付金を活用し、基幹作及び二毛作による作付拡大を推進するとともに排水対策等の取組を進め、実需者との契約を基本に需要に応じた生産を推進する。

(5) 地力増進作物

連作による収量低下を防ぐため、高収益作物の前作として「ソルガム」、「クロタラリア」、「オオムギ（ハダカ麦を含む）」の作付及びすき込みの取組を推進し、産地交付金を活用して、生産性向上を図る。

(6) 高収益作物

不作不地が増加する中、「甘藷」、「にんじん」等の園芸作物を中心に高収益作物と位置づけ、産地交付金を活用し、作付面積の維持・拡大を図る。また、二毛作による作付拡大を促進するとともに、生産性向上を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	507.8	0.0	500.0		491.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飼料用米	38.0	0.0	58.0		60.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
WCS用稲	167.1	0.0	170.0		172.0	0.0
加工用米	56.0	0.0	60.0		77.0	0.0
麦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飼料作物	397.6	285.9	420.0	300.0	396.0	280.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	81.1	75.0	81.9	75.0	92.0	75.0
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
地力増進作物	6.0	0.0	6.5	0.0	6.7	0.0
高収益作物	217.8	100.0	203.1	91.8	246.5	91.8
・野菜	137.5	98.3	125.0	90.0	150.0	90.0
・花き・花木	1.3	0.0	1.3	0.0	2.5	0.0
・果樹	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・その他の高収益作物	79.0	1.7	76.8	1.8	94.0	1.8
その他	3.5	0.0	3.5	0.0	5.0	0.0
・澱粉用かんしょ	3.5	0.0	3.5	0.0	5.0	0.0
畑地化	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度(実績)	目標値
				(3年度)	(5年度)
1	飼料用米、米粉用米、加工用米、新市場開拓用米(輸出用米含む)	生産性向上加算(基幹)	取組面積	89.0ha	122.1ha
			取組数量	471t	568t
2	野菜、花き・花木、その他販売を目的とした作物	高収益作物助成(基幹・二毛作)	取組面積	220.5ha	251.5ha
3	戦略作物、そば、なたね	二毛作助成(二毛作)	取組面積	333.1ha	355ha
			水田利用率	160.1%	139.20%
4	飼料用米	飼料用米の稲わら利用助成(耕畜連携・基幹)	取組面積	7.9ha	11.0ha
			実施率	20.8%	24.4%
5	WCS用稲	WCS用稲生産性向上加算(基幹)	取組面積	24.4ha	51.6ha
			取組数量	1,220ロール	2,580ロール
6	新市場開拓用米(輸出用含む)	新市場開拓用米への助成(基幹)	取組面積	0ha	1ha
7	そば、なたね	そば・なたね助成(基幹)	取組面積	6.1ha	7.2ha
8	飼料用米 米粉用米	飼料用米、米粉用米の複数年契約加算(基幹)	飼料用米複数年契約 取組面積・数量	37.6ha・177t	50ha・232.5t
			飼料用米作付面積・ 数量	38.0ha・178.9t	60ha・282.6t
			米粉用米複数年契約 取組面積・数量	0ha・0t	1ha・4.65t
			米粉用米作付面積・ 数量	0ha・0t	2.5ha・11.78t
9	ソルガム、クロタラリア、オオムギ(ハダカ麦を含む)	地力増進作物助成(基幹)	取組面積	6.0ha	6.7ha

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：鹿児島県

協議会名：志布志市農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	生産性向上加算(基幹)	1	4,240	飼料用米、米粉用米、加工用米、新市場開拓用米(輸出用米含む)	肥料の低減化等生産性向上の取組を行うこと
2	高収益作物助成(基幹)	1	25,460	別紙のとおり	対象作物の作付面積に応じて支援
2	高収益作物助成(二毛作)	2	8,480		
3	二毛作助成(二毛作)	2	12,730	別紙のとおり	排水対策を行うこと
4	飼料用米の稲わら利用助成(耕畜連携・基幹)	3	11,030	飼料用米	自家利用又は畜産農家と利用供給協定を締結し、飼料用米のわら利用を行うこと
5	WCS生産性向上加算(基幹)	1	2,540	WCS用稲	多収品種の作付け、航空防除実施等生産性向上の取組を行うこと
6	新市場開拓用米(輸出用含む)への助成(基幹)	1	20,000	新市場開拓用米(輸出用含む)	対象作物の作付面積に応じて支援
7	そば・なたね助成(基幹)	1	20,000	そば・なたね	対象作物の作付面積に応じて支援
8	飼料用米、米粉用米複数年契約加算(基幹)	1	6,000	飼料用米、米粉用米	生産者側と需要者側と3年以上の複数年契約、飼料用米の生産性向上の取組等
9	地力増進作物助成(基幹)	1	20,000	ソルガム、クロタリリア、オオムギ(ハダカ麦を含む)	対象作物の作付面積に応じて支援

(別紙)

高収益作物助成の対象作物

【助成対象作物】

整理番号	区分	作物名
2	野菜	にんじん、カボチャ、キャベツ、青果用かんしょ、加工用かんしょ、にがうり、いちご、なす、きゅうり、トマト、ピーマン、すいか、メロン、はくさい、ほうれんそう、ねぎ、たまねぎ、レタス、だいこん、さといも、えだまめ、そらまめ、しそ、アスパラガス、ばれいしょ、チンゲン菜、なっ葉、小松菜、大根菜、みずな、春菊、エン菜、カブ菜、空芯菜、京菜、山東菜、サラダ菜、タカ菜、タイ菜、ター菜、ビタミン菜、べか菜、大麦若葉、小ねぎ、深ねぎ、ふだんそう、モロヘイヤ、オータムポエム、ラデッシュ、紫つる、青つる、にら、イモガラ、みょうが、葉ニンニク、つわ、パクチョウ、からし菜、センモト、紅たい菜、グリーンボウル、冬華、広島菜、タラノ芽、らっきよ、セロリ、ブロッコリー、カリフラワー、ヘチマ、パプリカ、ししとう、とうがらしたかのつめ、へちおぐ、オクラ、とうがん、とうもろこし、はやと瓜、さやいんげん、さやえんどう、スナップえんどう、実えんどう、枝豆、インゲン、にんにく、しょうが、かぶ、ごぼう、れんこん、ケール、やまいも、こんにゃく、上記の種苗類、
2	高収益作物	焼耐用かんしょ
2	その他	たばこ、長豆、小豆、ささげ、なた豆、らっかせい、澱粉用かんしょ、えごま
2	花き	花き(種苗類含む)
2	花木	花木(花木については、茶は除く)

(別紙)

二毛作助成の対象作物

【助成対象作物】

整理番号	区 分	作 物 名
3	飼料作物	青刈りとうもろこし、青刈りソルガム、テオシント、スーダングラス、青刈り麦(らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。)、青刈り大豆、子実用えん麦、青刈り稲、わら専用稲、青刈りひえ、しこくびえ、オーチャードグラス、チモシー、イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス、ハイブリットライグラス、スミーズブロムグラス、トールフェスク、メドーフェスク、フェストロリウム、ケンタッキーブルーグラス、リードカナリーグラス、バヒアグラス、ギニアグラス、カラードギニアグラス、アルファルファ、オオクサキビ、アカクローバ、シロクローバ、アルサイククローバ、ガレガ、ローズグラス、パラグラス、パンゴラグラス、ネピアグラス、セタリア、飼料用かぶ、飼料用ビート、飼料用しば、飼料用レンゲ、グリーンパニック、その他畜産業に供給する飼料作物